

ほけんだより

2019. 2. 14 (木)
平川市立尾上中学校
海老名

Q.インフルエンザにかかったら、どのくらいの期間外出を控えればよいのでしょうか？

一般的に、インフルエンザ発症前日から発症後 3～7 日間は鼻やのどからウイルスを排出するといわれています。そのためにウイルスを排出している間は、外出を控える必要があります。

排出されるウイルス量は解熱とともに減少しますが、解熱後もウイルスを排出するといわれています。排出期間の長さには個人差がありますが、咳やくしゃみ等の症状が続いている場合には、不織布製マスクを着用する等、周りの方へうつさないよう配慮しましょう。

現在、学校保健安全法(昭和 33 年法律第 56 号)では「発症した後 5 日を経過し、かつ、解熱した後 2 日(幼児にあっては、3 日)を経過するまで」をインフルエンザによる出席停止期間としています(ただし、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるときは、この限りではありません)。**厚労省 HP より**



手洗いで問題になるのは、水の冷たさで十分に洗うことができないことです。

そのために、各階の水飲み場には手指消毒剤のポンプが置かれています。活用しましょう。

現在、インフルエンザで休んでいる生徒はいません。しかし、学区の小学校で流行性耳下腺炎が流行していました。流行性耳下腺炎とは ムンプスウイルスによる感染症で、一般的には唾液腺の膨張を特徴とします。潜伏期は 2～3 週間です。特に罹患率が高いのは、3～6 歳です。一般的には、片側あるいは両側性の唾液腺(耳下腺が最も多い)の膨張、疼痛、発熱を主症状とします。通常は 1～2 週間で軽快する予後良好の疾患ですが、髄膜炎、脳炎、難聴などの合併症を起こすこともあり、特に難聴は永続的な障害となります。ムンプスウイルスは潜伏期から唾液に含まれ、飛沫感染(咳、くしゃみなどにより飛び散った唾液や鼻水などを吸い込んで感染)します。感染防止のために外出の時にはマスクを付けましょう。

行事を振り返る～その3

思春期教室 (7/12) 2年生対象

健生病院の齋藤美貴先生に来て頂き、お話を伺いました。受精の神秘さ、出産の大変さ、自分の命の尊さ等々を、ドラマ「コウノドリ」や荒川静香さんのスケーティングを見ながら説明されました。2年生の皆さんは画面に引き込まれるように話を聞いていました。

コウノドリのテーマ:「妊娠」「出産」で生まれる人と人との結びつき、夫婦、そして親子のあり方、「命」が誕生するまで、誕生した後の葛藤、倫理、医療関係者と患者の関係など、命が誕生する「奇跡」

- 感想 (女子) 思春期の変化を知ることができた。男子と女子では感じ方が違ったり、時期が異なることもわかりました。困ったときの対応なども知ることができました。
- (男子) 性は恥ずかしいことではなく、自分たちの人生が関わっていることを知りました。一番大切なのは相手を思いやり行動
- (女子) 今はまだ理解が足りない部分があるだろうけれど、今日の知識を正しい知識として記憶に入れて更に正しい判断で生活していきたい。
- (男子) 相手のことを考える事が大切だと思いました。自分に付き合う人ができた時、どんな付き合い方をすればいいのか講演を聴いて、歳にあった付き合い方があるということがわかった。
- (女子) ドラマを見て、赤ちゃんもお母さんも助かって良かったと思いました。とても心配しました。

